

児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度

専門教育科目／2 単位／T 授業

担当教員 緒方 美穂

■使用テキスト

社会福祉士養成講座編集委員会(編)
『新・社会福祉士養成講座第15巻 児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度 第6版』
中央法規出版 2016

◆参考テキスト

講義概要・一般目標

児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度の講座は、テキストを中心にすすめる。子どもが健やかに生まれ育つ環境として、家庭がその基盤であり、ますます重要となってきた。家庭への支援をどうするか、子ども問題に視点をあてながら、考えていきたい。第1章では、子ども家庭福祉とは何か、理念や、原則、歴史、子どもの権利、子どもを養育する義務等について学ぶ。第2章では現代の社会環境、高齢化と少子化が同時進行する中で、子育て中の家庭の問題、子どもの育ちの問題、子育てニーズ等について学ぶ。第3章では、子ども家庭福祉の制度、関連法、実施体制、財政、専門職と資格その倫理、苦情処理と権利擁護等について学ぶ。第4章では、母子保健、障害児への支援、保育所保育、ひとり親の福祉、社会的擁護、非行、情緒障害児への支援、児童虐待対策、婦人問題と保護の問題等について学ぶ。第5章では、子ども家庭への相談援助活動や、施設ケア等について学ぶ。

現代社会の多様な変化、そこから発生する問題、それに対応するための、新たな法律制度、方法、支援、サービス等を学ぶこととなります。これら新たな法整備や施策は、次世代育成支援の方向で進められ、「児童福祉」から「児童家庭福祉」へという潮流と深く結びついている。

以上、現代の児童問題と関連させながら詳細に説明してあるので、よく学んで理解を深めてほしい。

到達目標

- 1) 「子ども家庭福祉とは何か」、その理念や、原則、歴史、子どもの権利・養護義務について説明できる。
- 2) 福祉の担い手としての責任と誇りを持ち、子ども家庭福祉ニーズを考える際には第一に子どもの発達に視点を当て、総合的に問題を考えていく態度を身につける。
- 3) 子ども・家庭への相談援助活動や施設ケアを学び、確実に実施できる技術につなげることができる。
- 4) 現代社会の多様な変化から発生する問題に対応するための支援や援助方法を自らの言葉で表現できる

評価方法

科目単位認定試験により評価。

学習指導

第1章 子ども家庭福祉とは何か

第1節 子ども家庭福祉の理念

この節のポイント

子育て家庭福祉の定義支援の必要性と、家庭支援サービスにどのような供給主体があるかを学び理解する。
児童福祉法第1条で、すべて国民は児童が心身ともに健やかに生まれ且つ育成されるよう努めなければならない。
また、すべての児童は、ひとしく愛護されなければその生活を保障されウェルビーイングとしての福祉に近づけるよう努めなければならない。

第2節 子どものための福祉の原理

この節のポイント

子どもと児童、子どもの特性と発達ニーズについて、理解する。児童憲章について、児童福祉法が法的規範であるのにたいし、児童憲章は道義的規範である、児童は、人として尊ばれる。児童は社会の一員として重んじられる。児童は良い環境のなかで育てられる。今日の法制度に見る子どもの年齢範囲を理解すること。

第3節 子どもと家庭の権利保障

この節のポイント

「児童の権利に関する条約」「国際児童年」条約はその第18条、で「父母または、法定保護者は、児童の養育及び発達について、第一儀的な責任を有する。と定め、これは、親の義務責任という見解は、国際的なものとなった。これは、家庭養護に欠ける児童の社会的養護を、保障する制度にどのような制度があるか、また自立支援をどうすすめるか学習していく。

第4節 子ども家庭福祉の発展

この節のポイント

日本の児童福祉の歴史、欧米の児童福祉の歴史について、それぞれの特徴を学ぶ。特に明治時代の児童福祉の発展が著しい。石井十次の孤児無制限収容（1200人）は有名であり、里親制度、小舎制は今日でも通用するものである。欧米では特に産業革命と児童保護に著しい特徴がある。

第2章 現代社会と子ども・家庭

第1節 現代社会と子ども・家庭の問題

この節のポイント

母親の就業と子育ての両立の困難さ、専業主婦の孤立感、育児に自信が持てない母親、父親の役割、家庭内における家族のコミュニケーションの不足、学校生活での問題点、青少年の非行犯罪の増加、子ども虐待の増加とその実態を把握する。

第2節 子どもの育ち、子育てのニーズ

この節のポイント

子ども家庭福祉ニーズについて把握しておく。子どもの家庭福祉のニーズから考える際に、子どもの発達に視点をおかなければならない。子どもは日々発達する存在であり、これら諸々のニーズは就労形態の多様化、家庭の養育基盤・機能の弱体化、地域のつながりの希薄化等に伴い、子どもの発達・成長や子育てにまつわる具体的ニーズの表面化したものである。

第3章 子ども家庭福祉にかかわる法制度

第1節 子ども家庭福祉の計画的進展と子ども・子育て支援制度の創設

この節のポイント

法制度を考える基盤となる子どもの育ち、子育てをめぐる諸相を知り、特に重視されつつある子育て支援策の展開について学ぶ。

第2節 子ども家庭福祉の法体系

この節のポイント

児童福祉の基本となる児童福祉法の概要と、社会福祉基礎構造改革と児童福祉法の改正について学習する。児童扶養手当法・母子及び父子並びに寡婦福祉法・母子保健法・児童手当法・特別児童扶養手当法・児童買春禁止法・児童虐待防止法等についての学習をする。また、その他の重要な関連法の制度についても学ぶ。

第3節 子ども家庭福祉の実施体制

この節のポイント

児童福祉サービスの体系、児童福祉行政の主な機関および関連機関、児童福祉施設等の実施体制、サービス利用方式等について学ぶ。

第4節 子ども家庭福祉の財政

この節のポイント

児童福祉施策を支える財政について、その財源や国庫補助金の概要について学ぶ。

第5節 子ども家庭福祉の専門職

この節のポイント

児童福祉施設に配置されている専門職員について、また、専門職員の資格やについて知る。人権に関わる個人情報保護や倫理観も身につける。

第6節 子ども家庭福祉と権利擁護

この節のポイント

子どもの最善の利益を守るためのシステムである苦情解決や施設内虐待防止、第三者評価や自己評価などの現状について学ぶ。

第4章 子ども家庭に関わる福祉・保健

第1節 子どもの貧困の防止

この節のポイント

現代社会における深刻な貧困問題について学ぶ。子ども貧困対策の推進に関する法律の制定や施策により改善の方向性を学ぶ。

第2節 母子保健

この節のポイント

母性と子どもの健康保持増進を図ることが目的である。子どもが健康に生まれ、健やかに育てられる基盤は母性の尊重保護である。従って妊産婦の健康管理が重要となる。子どもの妊娠から子どもが6歳までの管理記録のため母子健康手帳の交付を受ける。1歳6か月検診、3歳児検診は重要な施策である。

第3節 障害、難病のある子どもと家族への支援

この節のポイント

障害児をかかえる家庭の実情やニーズの把握が大切である。また、障害児支援に関わる主な制度の内容（医療制度・経済的支援等）また、難病や慢性疾患に対する、支援がどのように行われているか学んでおくことも大切である。

第4節 児童健全育成

この節のポイント

非行少年の増加と対策はどのようになっているか把握する。児童厚生施設・放課後児童クラブ・地域に応じた健全育成事業等について、その実態を把握する。

第5節 保育

この節のポイント

保育所は、本来の保育以外に多くの機能を果たすことになっている。延長保育や、育児相談や、一時保育等々さらに、乳児を預けるケースが増加し、待機児童の中に乳児が目立って増えてきた。これらの施策は、子どもの福祉に視点が当てられているのか考えなければならない。親の就労保障のみを考えてはならない。また、無認可保育所の現状を把握する。

第6節 地域子育て支援

この節のポイント

子育て支援は全国的に広がり、充実してきたが、地域によりかなりの差がある。今ある制度を十分生かして地域の実態に合わせた支援をしなければならない。

第7節 ひとり親家庭の福祉

この節のポイント

ひとり親家庭は（母子・父子）は増加してきたが、主な原因は離婚の増加である。母子家庭の方が多く、それぞれどのような福祉サービスが必要であるか、把握しておく。どのような制度や施策があるか、それが適切なものであるか考える。

第8節 社会的擁護

この節のポイント

現在の児童擁護施設について学び、これからの、社会的擁護のあり方について考察していく。健全育成の視点に立ち、情緒、精神面の安定を重視した小規模型住居で、家庭的養護が望まれる。里親支援も充実させる。

第9節 非行児童・情緒障害児への支援

この節のポイント

情緒障害児と非行児童が増加しているが、その実態と対策について、把握する。家庭支援は、児童精神科医等の専門家によらなければならないケースも多く、対応も困難である、今後の課題についても考える。

第10節 児童虐待対策

この節のポイント

虐待受けたこどもは年々増加し、非常に深刻である。虐待のハイリスク要因を理解し、子どもを虐待から保護するしくみ、虐待防止法の内容等を把握する。

第11節 子どもと家庭にかかわる女性福祉

この節のポイント

ドメスティックバイオレンスの実態と、子どもへの影響、その対策について、把握しておく。

第5章 子ども家庭福祉援助活動

第1節 子ども家庭福祉相談援助活動

この節のポイント

児童福祉の専門職の基本的要件にはどのようなことが挙げられるか、また専門職の法と倫理について学習し望ましい専門職のあり方について考える。

第2節 施設ケアと子ども家庭福祉援助活動

この節のポイント

児童福祉の職場を専門行政機関と施設に分けそれぞれの機関・施設の目的や機能との関連で、どのような資格を持った職員が働いているか、どのような役割を分担しあっているかについて学ぶ。また、それぞれの職務内容について理解する。

第3節 地域援助活動とネットワーク

この節のポイント

問題を抱える家庭への援助活動をどのようにすすめていくか、どのようにネットワークを構成し具体的に活動につなげていくか、どのように地域が連携していくか、考察する。